



AA日本ニューズレター

No.173

■第23回WSM開催 「三つのレガシー(遺産):あらゆる世代に不可欠のもの」

WSM評議員 野崎

「三つのレガシー(遺産):あらゆる世代に不可欠のもの」は、第23回WSM(ワールドサービスミーティング)のテーマである。昨年(2014年)、ポーランドのワルシャワで開催され、41の国と地域帯から61名の評議員が集結した。

今年2月の評議会で報告をしたので、ご存知の方も多いと思う。さらに、今年は7つの地域において報告会をする予定となっている。現在、中部北陸と九州沖縄にて実施し、8月に関西、10月に東北、11月に北海道と予定されている。

WSMも開催から半年以上過ぎ、自分の記憶力の限界に近づいている今日この頃、報告会を行うと、あのワルシャワでのミーティングの感動をまた思い返すことができる。ニューズレターの誌面でWSMのテーマについて少し分かち合いをしようとする。

三つのレガシー(遺産)はAAの中でよく耳にすると思うが、この遺産を私たちがどのように活用しているか考えてみたい。



まず、一つ目は回復、12のステップである。ここでステップを論じるつもりはないが、私たちのそれぞれの日常生活に、このステップが使われていることを意識しているメンバーはどれだけいるだろう。なにげない生活の一こまに一こまに12のステップが使われているからこそ、アルコールが飲まない生き方を継続することが可能になってくるのだろう。問題はこれを意識することで、振り返ってみると気がつくことができると思う。とにかく思い通りにいかない人生も、不満だらけの社会生活や人間関係も、それはそれなりになんとか生きていく。不思議な力を持つ、この大きな価値ある遺産をAAメンバーは享受しているのだ。

二つ目は一体性、12の伝統である。ビル・WがAAのプログラムが急速にアルコールの回復を広げてゆく中で、グループ、共同体の存続が不可欠であることから作り上げたこの原理は、今80年の時を超え私たちの中に脈々と伝えられた。現在、AA共同体が世界に220万人のメンバーを数えることができるのも、この一体性の原理があればこそだと考える。自我の強いアルコールの集団が分裂もせず継続している所以であり、個人よりも全体が優先され、人のために何が出来るか、それぞれの自立したプログラムの実践が社会資源となって受け入れられている。

三つ目はサービス、12の概念である。ビル・Wが唯一AA文献の中で名前を残したものが「ワールドサービスのための12の概念」、伝統5にあるようにAAの目的はただひとつで、このメッセージを苦しんでいる人たちに伝え、新しい人たちがAAにやっとないとAAはなくなってしまう

のだ。ここに継続性のあるサービスを確立する必要を感じたビルは、地球上の全ての場所でAAのサービスを行う原理を考えた。自我の強いアルコールの集まりに、徹底した民主主義と目的の単一性を常に念頭に、まだメッセージが届いていない、あるいはまだ生まれていない将来のアルコールのために、このプログラムが必要であることを説いた。そのために一体性を堅持しメンバー個々がAAからもらった恩恵を次の世代に手渡してゆかなければならないのだ。

こうして、3つの遺産の恩恵を受け、それぞれの奇跡的な回復を続けている220万人のメンバーは、このプログラムを次へと手渡してゆくことで、自らも更なる新しい生き方にチャレンジすることができる。

どうぞ、この素晴らしい原理を遺産として持っていることを誇りに感じて、新しい生き方を感謝と喜びの中で継続してほしい。

WSMの雰囲気やそこでの感激などは、私の能力では十分にお伝えすることは難しいことです。

私自身にとっては、何にも代えがたい経験であり、このいただいた宝物をどのように皆さんへ分かち合うのか悩んでしまうのが現実です。もちろん、報告書が翻訳されてお手元に届きますから内容は伝わると思いますが、ともあれ、これから他の地域へ報告にまいりますので、質問を用意してお待ちいただければと考えています。



受付に掲示された三つのレガシー
12&12&12

第23回 WSM スピーチより

文化的背景が女性の参加を妨げている時

チリ A 類常任理事 マリア・P

WSM では、いくつかのテーマに基づいて各国の代表がプレゼンテーションを行います。そのうちのひとつ、「AA グループの中での、そしてサービスの中での女性」というテーマで行ったチリのスピーチを紹介します。この記事は、NYGSOを経由して担当されたマリア・P 氏に転載をご快諾いただいたことで実現しました。ありがとうございます。(NL 編集委員会)

私はチリの A 類理事であり、常任理事会議長です。「AA への参加を妨げている文化の壁」というとても重要な問題について、私の国の女性を代表してお話させていただくことに大きな名誉を感じています。この話は、ラテン・アメリカ文化から流れる男性社会という制約の中での女性アルコールクの話です。

有史以来、私たち女性は社会において重要な役割を担ってきました。私たちの強さと愛情は、家族という基本的な仕組みを通して、社会の発展を支えるのに必要なものを私たちに授けてくれます。しかし、アルコールリズムのような繊細な問題によって、私たち女性は多くの困難に直面しているのです。

アルコールリズムの問題を熱心に研究している自らのアルコールクの友人は、イギリスのある研究に出会いました。その研究によると、男性のアルコールクが助けを求めた際には、10人中8人が配偶者に伴われてやって来ましたが、女性の場合は、10人中たった3人だけが母親や姉妹に伴われてやって来たにすぎず、配偶者に伴われて来たアルコールクの女性はひとりもいませんでした。この研究から、アルコール依存症という病気で苦しんでいる女性に共通している困難は、“孤独”であると容易に見て取れます。

それに加えて、女性はひとりで飲酒する機会が多いということも“孤独”の原因です。女性はアルコールクであることを恐れ、酔っていないと見られることによって自尊心を保っているのです。

家族について言えば、多くの女性が仕事や専門分野において活躍している今日でさえも、子どもの視点から見れば、母親がアルコールクであることは、家庭での安定感と世話をしてくれる存在を失うことを意味しているのです。そのために、よりアルコールクの母親を拒絶するようになるのです。アルコールクの子どもたちは次のように語っています。『私は AA に行く母親よりも、酔っ払っている母親を見る方が、恥ずかしく思う』と。私たちの目的は、より多くの子どもたちが飲んでいない母親を持てるよう手助けすることです。

AA において女性に対する文化的妨げになっているもうひとつの要因は、女性が期待されている多くの(男性社会の中での)役割です。そして、その障害は義務感にとらわれることです。たとえ自分自身の家であっても、時間とお金を使うためには、家族にお願いしなければならないのです。

また別の障害に直面したある女性メンバーの経験によると、サービスを始めた時、セクレタリーになることを求められました。また、

チェアパーソンになるために学び準備をしていたら、『偉そうに』と言われました。私たちはそうです、すっかり(男性社会に)巻き込まれていました。

アルコールリズムという病気は疑うことなく、誰にとっても同じです。しかし、それが女性となると、経験する現実が違ってきます。動機も異なります。このように多くの制約があります。

それでも、私たちが確信できることがひとつあります。AA が存在するということです。その存在は男性のためだけでなく、女性のためでもあるということ。そして、私たちはメッセージを運び続けているということ。来る日も来る日も、私たちは進んで回復を分かちあっているということ。ビルの言葉によれば、『私たちは喜んで行う道を選んでいる。私たちが行った選択の中で、それより良い選択はなかったから』(Grapevine November 1960 より引用)です。これは私たち女性メンバーの選択でもあるのです。

結論を言うと、このような文化的制約の元で助けを求めている女性に気づいた女性メンバーは、地元 AA グループの中でも外でも、その女性に注意深く手を差し伸べるべきだと私は思います。経験を分かち合い、(AA の手助けのできる範囲で)相談が必要な場合はスポンサーになるべきです。そうすれば、その仲間至今已でなかった変化が起こることでしょう。このような経験が手渡され、必要な適応力が生み出され、障害となっていたものから自由になるのです。その時こそ、伝統3が十分に行われ、扉が開かれることになるのです。

(AAWS 社の許可のもと、『第23回 WSM 報告書』16~17 ページより転載)

■アメリカ/カナダ80周年記念集会 開催

今度は貴方が自分のスポンシーを連れてきなさい!

RYU

AA 日本は、50周年のモントリオール大会に WSM 評議員を送り込み壇上でスピーチをする榮譽を得たと聞きます。55周年のシアトル大会の頃には JSO がツアーを組み、メンバー個々それぞれが自己負担で行くようにもなりました。60周年サンディエゴ大会の頃には、JSO ツアー最大の人数を引率し、また各 CO でもツアーを組み、メンバーのツアー分散化が行われるようになりました。65周年ミネアポリス大会、70周年トロント大会、75周年サンアントニオ大会と周年行事に参加するメンバーが増えた分だけ、今回の80周年アトランタ大会に於いては、JSO ツアーや CO ツアー更に日本全国から片手の指を越すツアーがメンバー個々によって企画された様子、また個人で登録から渡航まで済ますメンバーも増えて来たようです。

これらの周年行事にずっと参加し続けて来たメンバーは、最初は何も知らなかったから、皆がお金を集めて送り出してくれたそうです。それが今大会のように、メンバー個々のツアーの数を考えると、JSO ツアーを頼らずともメンバーを引率して行くだけのメンバーが増えたこと、これは良い意味で AA 日本の霊的な成長を感じさせて貰えます。

昔、ミネアポリス大会にハワイのダウンタウンのグループツアーで参加した時。そのツアーを企画したメンバーは、サンディエゴ大

ただくことになりました。開催するにあたってとりあえず資料をと思いい何人かの仲間にお願ひしたところまとめ切れないほどたくさん資料をいただきました。また他地区、他地域の仲間には「ぜひ当日手伝いたい」など力強いお言葉をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回のオリエンテーションの目的は、「新しい仲間、代議員未経験者たちへ代議員の役割、必要性を知ってもらうとともに、現代議員、代議員経験者への再確認」という方向に決まりました。今までサービスに興味がなかったメンバーや、興味はあるけど難しそうで敷居が高いと思っているメンバーには堅苦しくなくわかりやすいような、今サービスをやっているけどもっと知りたいというメンバー、以前やったことのあるメンバーにはより広く深く代議員の役割、必要性を知ってもらえたらと思っています。また、今回は伝統1「優先されなければならないのは、全体の福利である。個人の回復はAAの一体性にかかっている。」を改めて見直す良い機会かもしれません。AAメンバーが回復していくためには何が必要なのかを。

「無償で与えられたものは無償で返す。」先行く仲間が作って守り続けてくれた福島地区。それを今回自分たちが新しい仲間たちへ返す機会が来ました。まだまだ自分には経験、知識不足なところがたくさんあります。それを実行委員会に参加してくれている仲間や今までサービスで培った貴重な経験を持っている仲間の力を借り、参加者を含めて関わった人みんながよかったと思えるようなものにしたいです。

福島地区の代議員オリエンテーションではありますが、地区、地域関係なくたくさんの方に来てもらい経験の分かち合いをしたいと思いますので皆さんのご参加お待ちしております。

■ 常任理事会より

40周年記念集会後の分かち合い(アノニミティについて)

アメリカ/カナダB類常任理事 ポブ.W

AA40周年記念集会で常任理事会が主催しました市民シンポジウム「対話を通じた協力関係を目指して」の中で行われた討論/質疑応答に興味深いやりとりがありました。この内容を改めてポブ.W氏に書面でいただきましたので、皆さまと分かち合いたいと思い、ここに掲載することにいたしました。(AA常任理事会)

シンポジウムでの発言をここで明らかにしておきましょう。

政府の研究會に、常任理事会を代表してパネラー参加し、協力することは、よろこばしいことです。とはいえ、参加するAAメンバーやA類理事たち、イベントの主催者には、AAは完全に独立した団体であることと、政府やその他あらゆる機関にも従属しない

ことを理解してもらわなければなりません。また、AAが提供できる情報というのは、AAがどのように効果があり、AAがなにを行い、なにを行わないか、そのことに限ります。AAプログラムの範囲を超えた、外部のいかなる問題についても、コメントはしないように気をつけます。いとも簡単に、AAは論争に巻き込まれ、AAの「第一の目的」から外れてしまうからです。これは非常に大切なことです。私たちが手助けするのは、飲酒の問題に苦しむ人のみであり、薬物やギャンブル、その他の問題ではありません。この精神は、AAの序文にある「AAはどのような宗教、宗派、政党、組織、団体にも縛られていない。また、どのような論争や運動にも参加せず、支持も反対もしない。私たちの本来の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコールも飲まない生き方を達成するように手助けすることである」に直接関わっています。

私のコメントにあった、B類理事の派遣に慎重になることについては、単にアノニミティの観点からでした。B類もA類も、イベントに対して有益で異なる視点を提供することができます。A類は、B類と変わりなく、AAのサービスに関わることができます。

いただいた2つめの指摘は、B類のアノニミティに関わる大切な部分です。B類のアノニミティは、いかなるリスクを負ってでも守らなければなりません。そのために、彼らのフルネームが使われたり、写真や動画で撮影されることがないように注意を払わなければなりません。この点こそ、A類の援助が意味をなすところです。A類は、写真や動画に撮られることができるからです。このことは、専門家協力においてよく求められることです。

A類かB類、あるいは両方を派遣するかどうかの決定は、常任理事会の良心に委ねられています。伝統2は、私たちAAがする決定について、十分なガイドとなってくれます。すでに述べたように、A類もB類も、AAプログラムについてそれぞれのユニークな見方を伝えることができると思います。アメリカの常任理事会には7名のA類がいます。彼らはAAプログラムについて、明確に自信を持って説明することができますと、私は信じています。

あなたがこれから派遣される状況は、毎回違うものかもしれません。AAの伝統を理解していない専門家たちの中に、A類一人だけ派遣されて、自信をなくすことがあるかもしれません。また、専門家協力の活動においてAAの伝統がないがしろにされ、AAにとって役に立つ参加ではないと感じることがあるかもしれません。イベントの性質によっては、例えばTVのインタビューなどでは、A類だけの参加が求められます。今回の件のような、その他のイベントでは、A類とB類が有効なのでしょう。

大丈夫、きっとうまくいきます。最終的には、このイベントでAAが提供するものによって、AAのプログラムを知らずに苦しんでいるアルコールが、光を見いだすことができるのです。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス（J S O）

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aa-japan.org/jso-1@fol.hi-ho.ne.jp>

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休